

目で見る
矢吹町史

編集 矢吹町
発行

もくじ

弥生時代の生活……………一七

古 代……………一八

一、豪族の誕生と古墳……………二〇

二、奈良・平安時代の遺跡……………二九

中 世……………四四

一、中世の矢吹……………四六

二、矢吹の館跡……………五九

三、矢吹の板碑……………六六

鎌倉時代の板碑……………六九

南北朝時代の板碑……………六九

室町時代の板碑……………七〇

四、伝説のなかの矢吹……………七〇

近 世……………七三

一、近世の矢吹……………七三

二、会津藩時代の矢吹……………七九

三、白河藩領時代……………八〇

矢吹の宿……………八五

阿武隈川通船……………八五

三、高田藩・幕府領時代……………九六

釜子陣屋・浅川陣屋支配……………一〇五

塙陣屋支配……………一〇七

四、旗本領中畑陣屋支配……………一〇八

五、矢吹の村々……………一〇九

六、矢吹の社寺……………一一〇

七、近世の文芸……………一一三

近 代……………一一三

一、明治・大正の矢吹……………一一三

戊辰のつめあと……………一二四

白河口の攻防戦……………一二五

土地のおいたち……………一

土地の形成……………二

地形・地質……………三

原 始……………七

一、旧石器時代……………八

旧石器時代の生活……………九

二、縄文時代……………二二

弓矢の出現……………二二

前期……………二二

中期……………二四

後・晩期……………二五

三、弥生時代……………二六

「目で見える矢吹町史」の再版にあたって

矢吹町長 白坂武男

「目で見える矢吹町史」の再版によせて

矢吹町教育長 円谷行雄

「目で見える矢吹町史」の再版にあたって

矢吹町議会議長 円谷正秋

町民憲章

町民の歌

矢吹の歌

口 絵

〔初版〕発刊にあたって

矢吹町長 仲西藤次(当時)

〔初版〕「矢吹町史」の発刊によせて

矢吹町教育長 小林重孝(当時)

〔初版〕「目で見える町史」発刊に際して

矢吹町議会議長 井戸沼俊頼(当時)

御一新	二七
白河県と矢吹の村々	二七
文明開化	二八
馬車と汽車	四〇
勲業のあゆみ	四六
用水と農民の努力	四六
産業の成長	四六
岩瀬御猟場	一六
国営矢吹御猟場	一六
政治の動き	一六
矢吹の町村沿革と町村長	一六
明治・大正の官公所	一六
戦争と民衆	一七
学校のうつりかわり	一七
大正デモクラシー	一七
明治・大正の文芸	一八
明治・大正のスポーツ	一八
昭和はじめの矢吹	一九
農村の恐慌	一九
行政の推移	一九
矢吹が原開拓	一九
戦時体制下の矢吹	一九
戦中の生活	一九
昭和(戦前)の文芸	一九
昭和(戦前)のスポーツ	一九
昭和(戦後)の矢吹	一九
戦後の混乱	一九
戦後の復興	一九
羽鳥用水と矢吹が原	一九
戦後の矢吹が原開拓	一九
農業協同組合の設立	一九
ゆたかな町づくりへの出発	一九
町村合併へのうごき	一九

合併後のうごき	二〇
農業の変容	二〇
高度経済成長下の矢吹	二〇
ゆたかな田園都市づくりへの出発	二〇
戦後矢吹の世相	二〇
社会教育	二〇
昭和(戦後)の文芸	二〇
昭和(戦後)のスポーツ	二〇
自然	二〇
気候	二〇
動物・植物	二〇
編	二〇
庶民のくらしと変化	二〇
民具	二〇
笠	二〇
民家	二〇
はきもの	二〇
耕作図屏風	二〇
農具	二〇
養蚕	二〇
交易用具	二〇
酒	二〇
手仕事	二〇
兼	二〇
暦	二〇
絵紙	二〇
交通	二〇
民俗芸能	二〇
石仏	二〇
馬の信仰	二〇
民間信仰	二〇

別 自

追補 さわやかな田園都市づくり……………二六二

(二十一世紀をめざして)

幼稚園……………二六二

小学校・中学校……………二六三

高等学校・県農業経営大学校・保育園……………二六四

集会所・福祉施設……………二六五

人口構成……………二六九

病院・郵便局・警察署……………二七〇

公園の建設と整備……………二七一

出版・文化・生活……………二七二

町文化財……………二七九

台風10号による集中豪雨……………二八三

さわやか田園都市をめざして……………二八四

町内製造事業所一覧……………二八五

現職町議会議員一覧……………二八六

歴代町長・助役・収入役……………二八七

歴代教育長・町議会議長……………二八八

矢吹町内新旧字名対照一覧……………二八八

「目で見る矢吹町史」関係者……………

(初版) (改訂版)

考古・歴史年表



中畑村絵図(部分)

旧中畑陣屋役宅



旧中畑陣屋役宅(玄関)

三、弥生時代

紀元前三世紀ころ、大陸文化の影響をうけて、北九州地方を中心に稲作・機・金属などを伴った新しい文化が誕生した。考古学上これを弥生式文化とよんでいる。

弥生時代は三世紀まで約六〇〇年ほどつづいたといわれるが、この期間を前期・中期・後期に分けている。

東北地方に弥生式文化が伝わったのは、中期初頭紀元前一〇〇年ころと考えられる。

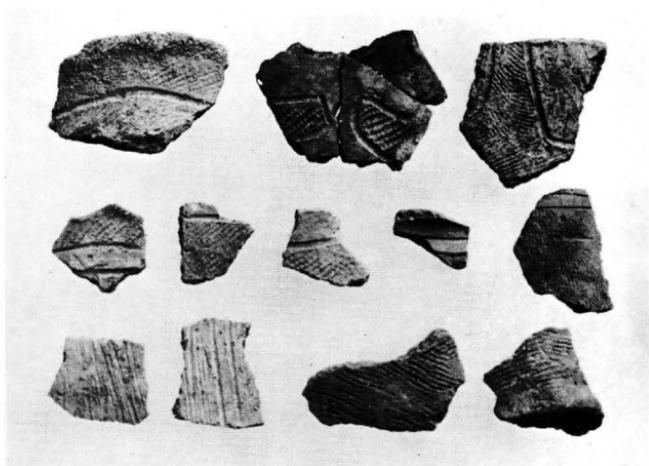
縄文時代は自然物を採集して生活を維持したが、弥生時代になると、自ら田を起こし、粳をまいて生産するという新しい時代をむかえたわけである。



弥生式土器(中期) 一本木



石 鉢 稲荷釜



弥生式土器(中期) 赤沢山

一、中世の矢吹

1

中世を通じておおよそ矢吹町の地域は、西部の大和久などを除く大部分が石川庄の範囲に含まれ、石川庄の領主であった石川氏の支配下におかれた。

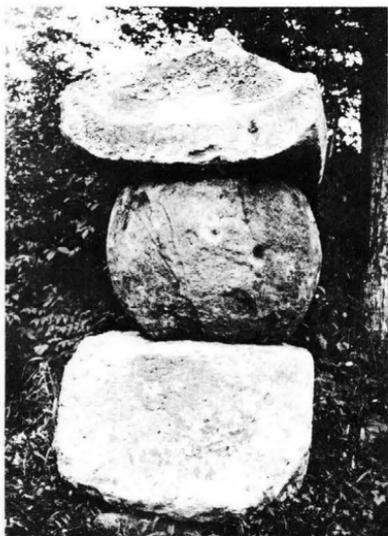
石川氏は清和源氏。その祖有光は十一世紀なかごろ、父頼遠と共に源頼義、義家に従って前九年の役に参加し、その功によって現在の石川郡地方を与えられ、康平六年（一〇六三）、当時藤田郷とよばれた現在の玉川村の地に住んだと伝えられる。有光は、この戦に討死した父の菩提のために岩法寺を建立し、子息有祐を氏神川辺八幡社の祭祀にあたらせ、またのちに、石川郷に三蘆城を築いてここに移ったという。石川系図は、有光がはじめ摂津国物津に住み、のち源義家の代官として仙道七郡の主となったと述べている。仙道七郡というのはこの場合、白河・石川・岩瀬・田村・安積・安達・信夫をさすものであろうか。なお『義経記』には、源頼義が「白川の関を越え、ゆきかたの原に馳付き、貞任を攻む、

貞任其日の軍に打負て、安積の沼へ引退く」とあり、前九年の役の両軍の戦場が「行方野原」とよばれた矢吹町東部でも行われたことを伝えている。

すでに平安時代に石川庄に米住した石川氏は、矢吹地方にも支配の手をのぼした。承元三年（一一〇九）、石川一族の石川坂地光盛は、嫡子光安（光重）に坂路・千石など九カ村を譲ったが、そのなかに堤村と給当村がみえる（赤坂文書）。堤村はいくまでもなく矢吹町東部の堤であり、給当はそれに近い久当山のあたりである。承元三年は鎌倉時代の初期であるから、おそらく平安時代から、堤・給当は石川氏の領地であったものと思われる。おそらく、この二カ

村以外の矢吹町の地域の大部分が、このころには石川氏の支配下に入っていたものであろう。

けれども、矢吹町の地域がすべて石川氏の独占下にあつたのではない。鎌倉末期の文保二年（一一三二）の文書には、結城盛広が富沢・真角・葉太などの十カ村とあわせて大和久を所領としていたことが記されている（結城文書）。後述する文禄四年（一五九五）の「蒲生領高目録」では三城目と大和久が白河郡の内となつていたことを考えると、少なくとも大和久は鎌倉時代から白河郡のうちであつたとみてよからう。結城盛広は下総国結城（茨城県結城市）の領主結城広綱の次男で、白河郡北方を所



石川有光の子石川基光の墓 石川郡玉川村
治承5年(1181)とある。重要文化財



石川城跡(三芦城)
石川郡石川町



会津藩領主年譜

	領主名	治世	知行高	在任年数
会津藩領	蒲生氏郷	天正18(1590)——文祿4年	92万石	5
	蒲生秀行	文祿4(1595)——慶長3年	"	3
	上杉景勝	慶長3(1598)——慶長6年	120万石	3
	蒲生秀行	慶長6(1601)——慶長17年	60万石	11
	蒲生忠郷	慶長17(1612)——寛永4年	"	15

一、会津領時代の矢吹
 矢吹の村々は、天正十八年（一五九〇）より寛永四年（一六二七）まで、会津領であり、寛永四年より寛保二年（一七四二）まで、白河領であった。

鶴ヶ城

至徳元年（1384）芦名直盛によって築かれた城で、黒川城と称した。その後、伊達政宗つづいて蒲生氏郷が入城して、町名を若松と改め、天守閣をはじめ城を整備して、鶴ヶ城と改めた。戊辰戦争の後、天守閣は解体されてなくなったが、昭和40年（1965）再建され、今日に至っている。



鶴ヶ城 会津若松市

氏郷の墓（会津若松市 興徳寺）



蒲生氏郷（西会津町 西光寺蔵）

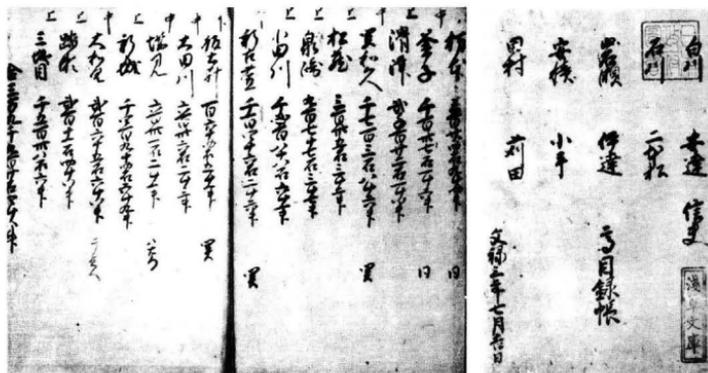
蒲生氏郷

弘治2年（1556）～文祿4年（1595）、安土桃山時代の武将で、近江城主賢秀の長子である。織田信長に仕え、ついで豊臣秀吉に属した。天正12年（1584）伊勢松島（のち松坂）12万石の城主となって、キリスト信仰に入り、洗礼を受けてレオと称した。秀吉の小田原攻略のときに、その戦功によって、天正18年（1590）会津城主となった。

（文祿3年の「蒲生領高目録」によれば92万石）。

文祿三年「蒲生領高目録」

この高目録帳は、蒲生氏郷が会津藩主となって、初めて行なった検地の結果をまとめた石高で九十二万石。松蔵（倉）・大和久・三城目など、各村々の石高が書かれている。矢吹の村々の所属郡に注意。



二、昭和はじめの矢吹

農村の恐慌

大正の終りから昭和の初めにかけて、米作は順調に伸び、昭和十五年、一万七、七〇石、昭和十年以後も、田中畑村で昭和十三年四八〇〇石、同十五年六〇四〇石、同十九年七四八一石、田矢吹町で昭和十三年三二、一〇石、同十五年三五〇二石と順調に伸びてきた。しかし、その間昭和四年の世界恐慌のあおりを受け、昭和五年九月に藪圃が大暴落し、米価も暴落し、農家は窮乏のドン底に陥った。昭和八年に、藪圃はやや回復したが、昭和九、十年と凶作が続く、農村不況となった。それで国・県・町村では農村振興に力を入れ、土木事業のほか郷倉の設置など（昭和十年、十一年に中

會大畑と長峯須）が行われた。

昭和九年十一月一日、農村更生の一つとして福島県立修練道場が陣場にできた。昭和十一年には、県営で矢吹が原原有地の一部八幡原を開墾することになり、同年五月、県下各地より七八戸が入植して開墾をはじめた。

昭和十二年日中戦争が起り、続いて昭和十六年には太平洋戦争に発展したため、農家では米麦ばかりでなく、いも類の増産に全力をあげたが、畜力利用については、馬が軍用に徴発されたため、代って牛の利用が盛んになった。中畑村では昭和十五年の飼育頭数三二一頭、牛二七頭に比べ、同十六年には馬二七三頭と減じ、牛は一〇八頭と大幅にふえている。

大正十年旧矢吹町主要産業統計表

生産順順位	項目	生産物名	生産額
一位	米	一町一円	三、一九五〇
二位	藪圃	一町一円	三、七四〇〇
三位	麦	一町一円	一、〇〇〇〇
四位	蕎麥	一町一円	六、五五〇〇
五位	家禽	一町一円	一、二六五〇〇
六位	果実	一町一円	六、五〇〇〇
七位	そば	一町一円	一、〇〇〇〇
業農	総作付面積	二八五町	

備考 田矢吹町、中畑村の合計による。

昭和十五年矢吹町主要産業統計表

生産順順位	項目	生産物名	生産額
一位	米	一町一円	九、五四三〇
二位	藪圃	一町一円	二、〇五一六
三位	麦	一町一円	二、七〇六〇

備考 田矢吹町、中畑村の合計による。

昭和のはじめの矢吹の町並み



矢吹町の十五年ごろ

長びく農村恐慌にともない、給料の未払いや失業者も増加した。矢吹町の産業を支えてきた銀行も、資金は底をつき、金融恐慌の嵐の中で、須賀川銀行（同矢吹支店）は、昭和七年九月、組織変更により解散。白河実業銀行（同矢吹支店）は昭和十三年に郡山商業銀行に合併、さらに十六年十一月東邦銀行に合併した。大正七年七月資本金六〇万で創立した矢吹銀行も、昭和十八年二月東邦銀行に合併するなど次々に消滅していった。



戦後流行した村芝居（軽演劇）

昭和21年(1946)～同23年(1948)ころまで、大関芳江を中心に、演劇や芝居の好きな青年が集まって「大衆演劇会」をつくり、矢吹で月1回公演を行い祭礼などにも出演して拍手喝采を受けた。



楽団シルバースターズ 昭和22年(1947)7月27日夜、矢吹町富永会館(旧公衆館)において、軽音楽団シルバースターズ第1回公演が行われた。このころのヒット曲は「帰り船」であった。猪飼徳四郎・藤田留治などが世話人で、約30名の団員がいた。県南地域の各町村を公演して歩いた。



外人客(狩猟)古川屋旅館前にて(終戦直後)



「国破れて山河あり」長い戦争のため、山野は荒廃した。ようやく緑の運動、植林事業が全国的に展開された。戦後いち早く組織された地域青年団も「部落林」の植林が事業の一つとして取上げられた。これは昭和25年(1950)現在の中学校の鳥場山の植林の時の写真である。(中畑青年団)



現在の教会(昭和48年)
矢吹町の場内にある。



矢吹町日本キリスト教会伝導所(昭和26年7月)

日本キリスト教会伝導所は昭和26年7月、矢吹町旭町に建てられ、建堂式が行われた。資金は35万円、特殊献金(古本販売、バザー等)による。設立者は関根艶子(矢吹町字小松)



三城目鎌倉会の獅子舞 (昭和45年)



三城目宿を通る獅子舞、平鍛踊り行列
(昭和17年)



三神地区郷土盆踊りの景 (昭和45年)



三城目鎌倉会の平鍛踊 (昭和45年)



原宿の二十三夜講 その(2)
つづみをたたいて歌をうたいながら舞う景。



原宿の二十三夜講 その(1)
月の23日(旧)講員集り、ご飯など食べて月の
出を待つ月待行事の景。

公園の建設と整備

大池公園

町の中心より北へ一・五kmのところにある、静かな水面とこれを取りまく赤松林がのどかな自然景観をみせている。公園の中心の大池は、昔あゆり沼と呼ばれており、あゆり川の源となっている。

かつては、みわたすかきりの松林に覆われていた原野で、池のほとりには往時の面影を見ることが出来る。公園の入口には、この矢吹カ原開拓をしるす開拓の碑、宮内省御猟場時代を物語る雉子塚が残されている。公園内には野外催しもののできる自由の広場、照明付の球技場、テニスコート、キャンプ場、子供の広場、遊技施設などがあり、遊歩道も整備され、町民が自然に親しみながらコミュニティの輪をひろげていく憩いの場となっている。



野外炊飯施設



農民健康増進施設



松林の中の遊具施設



「ふくしま緑の百景」選出記念碑

大池改修記念碑
公園入口にある

(昭和六十年六月一日完成)



夜間照明施設